

# 学校教育方針

## 学校教育目標

自分の夢に挑戦し、仲間と共に高め合い、  
よりよく生きようとする子ども

## 目指す子ども像

### 自分を大切にする子

～自分の夢を大切にし、向上心をもって意欲的に自ら学び、  
希望や目標に向かって自分をよりよく生かそうとする力を育てる～

### 人を大切にする子

～学級や学校の仲間や地域の人たちとの協働活動を通して、  
人を思いやり温かく接しようとする心を育てる～

### きまりや約束を大切にする子

～学校や学級のよりよい生活づくりのためのきまりや約束を守る活動を通して、  
自ら判断し正しく行動しようとする力を育てる～

### ものを大切にする子

～学校生活の中でみんなが使う物や場所を意識できるようにし、  
ものを大切にしようとする心を育てる～

### いのちを大切にする子

～人や動植物、自然環境とかかわる体験活動を通して、  
かけがえのない自他のいのちを大切にしようとする心を育てる～

## 1 松陽教育の中核に据える7つの教育活動<松陽007: Shoyo Seven>

- (1) 児童の学びの力を高める授業づくり、家庭学習づくりの推進（確かな学力）
- (2) 一人一人を徹底的に大切にされる存在に育てる人権教育の充実（確かな学力・豊かな心）
- (3) 成長を促す指導、予防的な指導、課題解決的な指導の充実を図る生徒指導の推進（豊かな心）
- (4) 自主的・実践的な態度と自己を生かす能力を育てる特別活動の充実（豊かな心）
- (5) 児童の実態に応じて内容の重点化を図った道徳教育の充実（豊かな心）
- (6) 健康な心身と安全な生活をつくる健康・安全教育の充実（健やかな体）
- (7) 児童が明るく生き生きと生活できる教育環境整備の推進（確かな学力・豊かな心・健やかな体）

## 2 「松陽007」の具現化に向けての取組

- (1) 児童の学びの力を高める授業づくり、家庭学習づくりの推進（確かな学力）

◎校内研究を推進し、松陽の児童の実態に即した授業づくりを行う。

\*国語科を中心とした授業のユニバーサルデザイン化を推進し、授業改善に努める。

\*学習課題を解決するための言語活動の質の向上を図り、効果的に構成する。

\*学習課題に対応した「まとめ」を的確に行う。

\*学校図書館（図書室・コンピュータ室）を自ら学ぶ「学習・情報センター」として計画的に利用する。

◎基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、すべての児童に学習基盤の確立を図る。

\*基礎・基本タイムの取組や読書タイム、松陽漢字検定等の充実を図る。

\*学年の協力体制の中で、学習相談や課外学習の充実を図る。

\*習得した知識・技能を活用し、言語活動を重視した学習活動を展開する中で、思考力・判断力・表現力等を育てる。

◎学年の段階を踏まえた家庭学習の仕方を示し、自学自習の力を育てる家庭学習の充実を図る。

\*家庭学習マニュアル、家庭学習ノートを作成したり、手本となる自主学習を掲示したりして、児童の家庭学習への支援や指導の方法を工夫する。

\*家庭学習の意義や内容について家庭との共通理解を図り、学校と家庭が連携した取組を進める。

◎若年教員の教育力の向上を図るために、松陽若葉会や入り込み指導を実施する。

\*学級経営や授業実践について校内で学ぶ機会を設定し、日々の教育実践に生かせるようにする。

\*学年会で教育実践を振り返ったり紹介したりして、学級経営や授業実践についての情報交流を行う。

- (2) 一人一人を徹底的に大切にされる存在に育てる人権教育の充実（確かな学力・豊かな心）

◎人権尊重の基盤となる信頼関係を構築し、よりよい人間関係を形成する集団活動を推進する。

\*教育相談等の取組を通して、教師と児童との信頼関係を深めたり、児童理解を図ったりする。

\*個と個、個と集団の関わりを重視した意図的・系統的な協働活動を推進する。

◎児童の将来を見据え、すべての児童の自己実現につながる取組の充実を図る。

\*児童一人一人の学習課題に的確に対応し、指導内容や方法を工夫して授業改善に努める。

\*コスモス学級やわくわく教室での教育を効果的に活用し、児童の自立促進を図る。

\*保護者と連携して多様な児童の困りを的確に受け止め、手立てを工夫して、適切に支援する。

\*「つばさ園」との連携に努め、「つばさ連絡会」「学習相談」等の効果的な活用と充実を図る。

◎人権を尊重する社会の担い手を育てる取組の工夫と充実を図り、行動化に結び付く力を育てる。

\*男女平等教育、総合育成支援教育、同和教育、外国人教育における課題に対応した取組の充実を図る。

\*いじめ、情報モラル等の児童に関わる今日的課題に対応した取組を進める。

\*「なかよしの日」「人権朝会」等の取組や保護者や地域との連携を図る取組の充実を図る。

\*C S Sを教育活動に効果的に活用する工夫と取組の充実を図る。

(3) 成長を促す指導, 予防的な指導, 課題解決的な指導の充実を図る生徒指導の推進 (豊かな心)

(4) 自主的・実践的な態度と自己を生かす能力を育てる特別活動の充実 (豊かな心)

◎一人一人の子どもを大切に, 子ども理解を基盤にした指導の充実を図る。

\*児童の居場所づくりを進める観点から, 教育相談の充実と効果的な活用を図る。

\*児童との信頼関係づくりの観点から, 家庭訪問 (児童館やつばさ園を含む) の効果的な活用を図る。

\*学年等で常に児童や学級の状況を共通理解できるように工夫し, 指導の充実を図る。

◎自分たちの学級生活を楽しくするために, 議題を見つけて話し合い, 協力して実践する活動を推進する。

\*発達段階に即した指導の目安を明確にし, 全教職員の共通理解を図りながら取り組む。

\*学級会コーナーを全学級にも共通に設置し, 学級の生活づくりへの意欲を高める。

\*楽しく豊かな学校・学級生活をつくるために, 活動内容を工夫した係活動・委員会活動を推進する。

◎課題を明確にして, 子ども・学級の変容に粘り強く働きかける実践活動を推進する。

\*学級活動(2)における「日常の生活や学習への適応」について, 集団思考を生かした指導の充実を図り, 自己目標の実現に向けた実践を進めることを通して, 自己指導能力の育成を図る。

\*規範意識の育成の加点から, 「もの」や「約束やきまり」についての課題を自己の問題としてとらえ, 問題解決につなげようとする意欲を育てる。

\*自己有用感や自己存在感を育てる観点から, 当番活動や係活動, 委員会活動などで担った役割を果たす活動を充実し, 役割や責任をしっかりと果たす子どもを育てる指導を徹底する。

\*いじめを許さない児童相互の絆づくりを進める観点から, 学級活動や異年齢交流活動等を通して温かい人間関係を築く力を育てる指導を充実する。

◎支援や配慮が必要な児童を取り巻く支持的な学級集団を創造する。

\*学級会や実践活動において人間関係に関わるねらいを設定し, 意図的・計画的な実践を重ねる。

\*集団のよさを実感できるような活動を意図的に仕組み, 温かな人間関係を感じられるような「空気」をつくる。

(5) 児童の実態に応じて内容の重点化を図った道徳教育の充実 (豊かな心)

◎目指す子供像の実現に向けて, 道徳的価値を大切にする心を育てる指導の充実を図る。

\*主体的な実践につながる道徳性の育成を意識した取組を推進する。

\*特別活動と道徳の授業との関連を意識して指導の充実を図る。

\*特に道徳の授業は, 各時間のねらいを明確にし, 板書等で効果的な指導を工夫して, その充実を図る。

\*各学年に道徳掲示板を設け, 月1回のペースで道徳の授業の板書や児童の考え等を掲示する。

(6) 健康な心身と安全な生活をつくる健康・安全教育の充実 (健やかな体)

◎遊びや運動及び望ましい生活習慣の実践を通して, 明るく生き生きと生活できる力の育成を図る。

\*体育学習及び運動部活動のより一層の充実を図る。

\*家庭と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」等の望ましい生活習慣を実践する力を育てる。

\*食物アレルギー等に適切に対応したり, 安全・防災教育の充実に努めたりして, 児童の学校生活を安心安全なものにする。

(7) 児童が明るく生き生きと生活できる教育環境整備の推進 (確かな学力・豊かな心・健やかな体)

◎明るい雰囲気をつくる校舎にするための環境美化を推進する。

\*廊下・階段の壁面の塗り替えと床タイルの補修を教職員作業で行う。

\*廊下を広くするために設置物の除去等の整備を行う。

\*南校舎のトイレの整備を申請するとともに, 衛生管理に努める。

◎教育のユニバーサルデザイン化を図るための環境整備を推進する。

\*新たな学年掲示板的設置に伴い、活用の仕方についての共通理解を図る。(道徳掲示板的等)

\*掲示物等の教室環境を学年段階に応じて系統的に工夫して統一感をもたせる。(学級活動コーナー等)

\*靴箱・ロッカーなどの使い方、提出物の出し方等についての指導をそろえる。

### 3 その他の重点的な取組

(1) 地域力を生かす学校運営協議会の取組の推進

◎従来の取組を整理して発展的な充実を図る。

◎学校・家庭・地域が連携して、「チーム松陽」の取組を進める。

(2) 小中一貫・小小連携の取組 (榎原中学校・榎原小学校・松陽小学校)

◎児童生徒の小中9ヵ年を見通した教育活動の充実と推進を図る。

\*取組の内容については別紙参照

(3) 支部育成学級交流会・合同運動会に向けた取組

◎すべての児童が障害についての理解と認識を深め、互いを尊重し共に成長し合う教育を推進する。

◎障害の有無にかかわらず、すべての児童が目標をもって共同で達成する学習の場を設定する。

(3) 「松陽メソッド」の工夫と活用

◎「松陽メソッド」と呼べる松陽小学校独自の取組<松陽007:Shoyo Seven>

◎協力指導体制の工夫 (少人数授業, TT, 専科, 交換授業などについて)

\*教務部のうち3名の教員をそれぞれ低・中・高学年部の担当とし、各部(担任+1)7名の協力指導体制を組織する。

\*算数の少人数授業は行わず、言語活動を効果的に活用した授業構成や協力指導体制の工夫などによって、数学的な思考力を育てる指導内容の充実を図る。

\*高学年の理科は専科指導とし、科学的に調べたり考えたりして問題解決する探究的な態度を育てる。

\*6年音楽, 3~5年書写については、原則TT体制での指導を行う。

\*交換授業は行わないが、生徒指導・児童理解の観点から全学年で、学年担任が道徳の授業の持ち回り指導を行う。

◎時間割の設定と活用の工夫 (帯タイム, 5分間休憩, 松陽タイムなど)

\*水曜日の清掃時間と基礎基本タイムを合わせた25分間を特別活動の時間(松陽タイム)にあてる。

\*基礎基本タイムの教材作成・整備は、担任と相談の上、教務部(学年担当)が行う。

\*5分間移動の時間設定と残り5分の音楽の取組を継続する。

\*児童も教職員も、教室移動は「だまって移動」を行う。

◎見通しのある指導(教員)と活動に生かす評価(児童)の工夫

\*教職員は「N(ねらい)T(徹底)H(振り返り)K(行動化)」のサイクルにあてはめて、N(ねらい)を明確にし、T(徹底)して行う指導によって児童がどのようにH(振り返り)、次にどのようなK(行動化)を図るのかという見通しをもって指導にあたる。

\*児童は「P(計画)D(実践)C(振り返り)A(次の行動)」のサイクルにあてはめて自主的・実践的な活動を行う。特に、活動のまとめとしてC(振り返り)の時間を必ず設定し、次の活動への意欲や見通しをもつことができるようにする。